

令和6年度「熊本の学び」研究指定校事業 事業実績報告書

1 研究の内容

授業力向上（○）・道徳教育（ ）・キャリア教育（ ）・特別活動（ ）
カリキュラム・マネジメント（ ）・その他（○）（内容：小中連携）

2 学校の概要

<児童（又は生徒）数・教員数（令和6年（2024年）4月現在）>（単位：人）

プロジェクト地域	人吉市立第二中学校区			
プロジェクト校	児童生徒数	教員数	校長名	研究主任名
人吉市立第二中学校	402	30	松本 幸保	新木 大輔
人吉市立人吉西小学校	245	21	田代 隆徳	中山 理香子
人吉市立西瀬小学校	160	15	沢田 美穂	高田 敬史
人吉市立中原小学校	294	24	池田 雄一郎	内村 洋介

3 研究主題

「自ら問いを発し、学びを深め、未来を切り拓く子供の育成」

4 研究主題設定の理由

「熊本の学び推進プラン」には、「熊本の未来の創り手となる子供たちに期待する学び」として、「問いを発し、課題に主体的に立ち向かい、学びを深める熊本の子供」と提言されている。また、令和2年7月豪雨において、本校区は甚大な被害を受けた。復興は着実に進んでいるものの、まだ途上にある。地域の未来を切り拓く子供たちに、誰一人取り残すことなく学びを保障することは地域の願いである。予測不可能で変化の激しい時代をたくましく生きていく資質・能力を身に付けるために、また、子供の9年間の学びの連続性を確かなものにするためにも、本校区の4校（第二中・人吉西小・西瀬小・中原小）が連携して実践に取り組んでいく必要がある。そこで、校区で研究指定を受けたことを機に、本校区4校で共通の研究主題を設定することとした。研究指定1年目となる今年度は、授業力の向上を中心に取り組んだ。

【授業力の向上】

- ①単元を貫く学習課題や育成する資質・能力を明確にすることで、児童生徒が学びの見通しをもち、自ら問いを発するような授業改善が必要である。
- ②自分の言葉で考えを表現（発表したり、記述したり）できる児童生徒を育成する必要がある。
- ③質の高い「めあて」や「学習課題」の掲示、「まとめ」と「振り返り」の充実へと改善を進める必要がある。
- ④目指す児童生徒の姿や育む資質・能力が共有された取組の充実が必要である。

【学習環境の改善】

- ⑤周囲の友達と関わったり、話し合ったり、協力したりするなどして、学びを深める取組が必要である。
- ⑥児童生徒の自己存在感を育む学習環境を整える必要がある。

【家庭連携の充実】

- ⑦家庭と連携した学習習慣形成に向けた取組の充実が必要である。
- ⑧家庭学習の計画や取り組み方法、読書への関心に対する個人差が大きい。

【校種間等交流の充実】

- ⑨ グランドデザイン・学校教育目標等の実現に向けた五者連携による取組の充実をより一層図る必要がある。
- ⑩ スタートカリキュラムにおける幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力及び期待する成長の姿を校区全職員で共有する必要がある。
- ⑪ 小・中間及び小・小間での交流を踏まえて、お互いの授業や取組について意見交換したり、小中相互の児童生徒理解の場を設定したりする機会が一層必要である。

5 研究の具体的な取組内容の実際

【授業力の向上】

- 人吉一中校区での令和4・5年度「熊本の学び」研究指定校事業及び人吉市立教育研究所学力向上部会で提案している「1つの前提と2つの視点」を学習構想案に示し、授業づくりの骨格として反映させる。（前提：授業の終末において、つぶやいてほしい子供の言葉の設定 視点1：子供が問いをもち、主体的に学ぼうとする質の高いめあての設定 視点2：子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問・活動の設定）（①・②・③）
- 根拠を明確にして発表する活動を意図的に位置付ける。（②）
- 義務教育9年間で育みたい資質・能力や、中学校第3学年時の姿についての共通理解を図り、小学校低学年から義務教育修了後の姿を意識した指導を行う。（④）
- 学力調査等の結果を基に各学校におけるつまずきを分析し、つまずきパターンの類型化と対策を検討し、4校で共通理解の場を設け、9年間を見据えた系統的な指導に生かす。（①・④）

【学習環境の改善】

- 学習に集中して取り組む基盤づくりとして、授業に臨む態度や準備の例を具体的に示し、学習に向かう態度が醸成されるように発言や教室でのマナー、ルールを明示化する。（⑤）
- 各教科等での学びの成果を校内・学級掲示することで、自己存在感や共感的人間関係の構築を図る。（⑥）
- 学級の支持的風土の醸成に向け、学級経営等で充実した取組の好事例を小中学校で共有する場を設ける。（⑥）

【家庭連携の充実】

- 小中学校共通の「二中校区家庭学習の手引き」を用いて、発達段階に応じた家庭学習への取り組み方の理解を促す。特に、中学校1年生への接続時に家庭学習の習慣化のための工夫を図る。（⑦）
- 家庭学習の意義やその取り組み方法等の情報共有を積極的に図る。（⑧）

【校種間等交流の充実】

- 各学校が目指す資質・能力を4校の家庭、教職員、児童生徒で共有し、行事や各教科等における活動時に具体的に示していく。さらに、スタートカリキュラムにおける期待する成長の姿を共有できるように、関係幼保園等にもグランドデザインを示していく。（⑨・⑩）
- 小・中間、小・小間での交流を図るため、お互いの授業を参観し合う機会を設ける。各学校の時間割を共有し、参観可能日時を設定して、授業の参観交流を行う。（⑪）
- 小学校から中学校への円滑な接続のため、体験入学や説明会等の充実を図る。（⑪）
- 人吉市立教育研究所学力向上部会との連携により、小中学校各教科各学年の学習構想

案をコンテンツとして Microsoft Teams で蓄積し、市内全職員で共有を図ることで、教職員一人一人の指導力向上を目指す。(11)

6 目指す成果【検証方法】

【授業力の向上】

- 各教科等の見方・考え方を意識した授業改善【研究授業及び授業改善チェックリスト、学習構想案による「1つの前提と2つの視点」、i-check 及び熊本県学力・学習状況調査等の年次比較】(1・2・3)
- 発達段階に応じた地域共通の資質・能力が反映された各学校の「授業改善チェックリスト」の作成・活用【授業改善チェックリスト】(4)

【学習環境の改善】

- 主体的に授業に臨む態度の育成【i-check 及び熊本県学力・学習状況調査等の年次比較】(5)
- 認め、ほめ、励まし、伸ばす学級経営を基盤とした支持的風土の醸成(6)
- 子供の学ぶ意欲を高める校内掲示・学級掲示の工夫【自己存在感・共感的人間関係等を図る掲示等の工夫充実】(6)

【家庭連携の充実】

- 授業で学んだことを家庭学習につなげる自主学習の工夫【発達段階に応じた「二中校区家庭学習の手引き」】(7)
- 教職員・児童生徒・保護者間での学校教育目標等の共有化【ランドデザインの五者共有】(8)

【校種間等交流の充実】

- 就学前から中学校までの活動において育成する資質・能力の把握と共有【4校のランドデザインを幼保園等と共有】(9・10)
- 小中交流機会の充実による、相互理解の深化【小中交流会、体験授業等の工夫】(11)

7 研究実施の実際

時期	実施内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○各学校の学校教育目標及び育成する資質・能力の決定 ○各学校のランドデザイン決定 ○いきいき生活ウィーク(小中) 26日(金) 熊本の学び研究指定校情報交換会(第1回、オンライン会議) 26日(金) 第1回二中校区研究推進委員会
5月	<ul style="list-style-type: none"> ○事業計画書提出 ○研究授業担当者等の選定 ○授業改善チェックリストの検討・作成 27日(月) 第2回二中校区研究推進委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す子供像の作成・共有 ○家庭学習の手引きの共有 ○各学校の校内研究授業及び授業研究会の実施及び参加交流の開始 12日(水) 西瀬小学校研究授業(6年国語科) 19日(水) 中原小学校研究授業(6年算数科)

7月	<p>○家庭学習充実週間の取組</p> <p>○「熊本の学び」等に関する研修（各学校）</p> <p>10日（水） 人吉西小研究授業（5年国語科）</p> <p>17日（水） 二中校区交流会 （第二中学校に二中校区全職員が参集し、授業参観と研究協議会を実施）</p> <p>22日（月） 第1回二中校区研究主任会</p> <p>30日（火） 「熊本の学び」プロジェクト校情報交換会（第2回）</p>
8月	<p>○幼保等小中連携で、相互参観と情報交換（ランドデザインの共有）</p> <p>7日（水） 第2回二中校区研究主任会</p>
9月	<p>○家庭学習充実週間の取組</p> <p>○いきいき生活ウィーク（幼保等小中）</p> <p>4日（水） 第二中研究授業（3年国語科）</p> <p>4日（水） 人吉西小研究授業（6年算数科）</p> <p>5日（木） 第3回二中校区研究主任会</p> <p>18日（水） 中原小研究授業（4年外国語活動）</p> <p>18日（水） 西瀬小研究授業（2年道徳科）</p> <p>18日（水） 人吉西小研究授業（3年道徳科）</p>
10月	<p>○体験入学における小中学生交流事業の実践</p> <p>1日（火） 第二中研究授業（1年英語科） ※スーパーティーチャー公開授業を兼ねる</p> <p>21日（月） 第3回二中校区研究推進委員会</p> <p>21日（月） 第4回二中校区研究主任会</p> <p>23日（水） 西瀬小研究授業（6年外国語科）※3小合同研を兼ねる</p> <p>30日（水） 人吉西小研究授業（4年外国語活動）</p> <p>30日（水） 中原小研究授業（1年国語科）</p>
11月	<p>○家庭学習充実週間の取組</p> <p>13日（水） 西瀬小研究授業（3年社会科）</p> <p>13日（水） 中原小研究授業（3年国語科）</p> <p>14日（木） 第5回二中校区研究主任会</p> <p>18日（月） 第6回二中校区研究主任会</p> <p>27日（水） 西瀬小研究授業（6年理科）</p> <p>27日（水） 中原小研究授業（3年国語科）</p> <p>28日（木） 第4回二中校区研究推進委員会</p>
12月	<p>○学習構想案・授業研究会に係る助言者打合せ（オンライン会議）</p> <p>○各学校の校内研究授業及び授業研究会の実施及び参加交流</p> <p>○実態調査の実施（児童生徒・教職員・保護者向けアンケート）</p> <p>6日（金） 第7回二中校区研究主任会</p> <p>9日（月） 第5回二中校区研究推進委員会</p> <p>12日（木） 第8回二中校区研究主任会</p> <p>17日（火） 第9回二中校区研究主任会</p> <p>25日（水） 第6回二中校区研究推進委員会</p>

1月	6日(月) 第10回二中校区研究主任会 7日(火) 第11回二中校区研究主任会 16日(木) 公開授業(研究指定1年次) (各校で実施。合計5本の公開授業の授業研究会) ○いきいき生活ウィーク(小中) 29日(水) 小中合同研修会 (東京家政大学非常勤講師:山浦秀男先生によるi-check研修会) ○他管内「熊本の学び」研究指定校 参観・視察
2月	○今年度の校内研修のまとめ ○家庭学習充実週間の取組 ○次年度グランドデザイン策定に向けた課題抽出 ○事業報告書提出 12日(水) 中原小研究授業(2年道徳科) 18日(火) 第7回二中校区研究推進委員会 20日(木) 次年度に向けた「熊本の学び」推進研修会(オンライン)
3月	○次年度の研究推進に関する研究推進委員会の開催 ○実態調査の実施(児童生徒・教職員・保護者向けアンケート) 12日(水) 第12回二中校区研究主任会 17日(月) 第8回二中校区研究推進委員会

8 市町村教育委員会の取組の実際

- カリキュラム・マネジメントに基づく総合的な学校運営に関する指導助言
- 研究推進における指導助言
- 校内研修及び研究授業における指導主事等の派遣
- 講師招聘等における熊本県教育委員会との連絡調整
- 公開授業等の準備及び開催等における熊本県教育委員会との連絡調整

9 研究の成果【検証方法】

【授業力の向上】

- 学習構想案については、熊本県教育委員会の例示を基に、本研究の趣旨を盛り込んだ。授業構想の段階で、「1つの前提と2つの視点(前提:授業の終末において、つぶやいてほしい子供の言葉の設定 視点1:子供が問いをもち、主体的に学ぼうとする質の高いめあての設定 視点2:子供を深い学び・確かな学びへと導くゆさぶり発問・活動の設定)」を学習構想案に示し、授業づくりの骨格として反映させることができた。校区と学校全体で目指す方向性を共通理解し、共通実践に向かう意識をもつことができた。(①・③)
- 授業改善の取組によって、i-check 及び熊本県学力・学習状況調査の年次比較、児童生徒対象アンケートの結果から、「自ら課題について解決しようとしている」「対話を通して、友達や先生と学びを高めようとしている」の項目において向上が見られた。(①・②・⑤)
- 各校において授業観察におけるチェックリストを用いて、観察の視点を示したことで、研究主題に沿う教師や子供の姿を明確にする手立ての一つとなった。さらには、共通の視点に加えて各学校独自の視点をチェックリストに位置付け、全職員で授業改

善に向けて取り組むことができた。(①・②・③・④)

○学力調査等の結果を基に分析し、つまずきパターンの類型化と対策について共有を図るとともに、9年間を見据えた系統的な指導ができるように、各学校の校内研修に生かすことで、教員の共通理解につなげた。(①・②・③・④)

○教員が従来の授業観や学力観、児童生徒観から脱却し、目の前の児童生徒に身に付けさせるべき学びの姿や児童生徒自身の姿について問い直し、子供の姿に寄り添った新しい教育活動を実践しようとすることができた。それによって、単元デザインを工夫し、振り返りを充実させたり、児童生徒一人一人に対する学びの見取り方を変えたりする実践が見られた。それぞれの教員のマインドセットの転換が、学校全体の教育文化となって現れつつある。(④)

○研究授業後の授業研究会においては、参加者が主体となる授業研究会の在り方を検討することができた。授業と研究会が相似形となることを目指したこの1年間の取組は、授業研究会に対する教員の捉え方を大きく変える契機となった。また、職員室等で教員同士のコミュニケーションを日常化し、学校文化を変えていくことが、児童生徒を中心に据えた学びに寄与していくことを改めて確認することができた。

(①・②・③・④)

【学習環境の改善】

○学習への主体性や学級の支持的風土の醸成に向け、二中校区交流会や研究会等で協議する場を設け、各校での共通実践につなげることができた。また、i-checkに関する二中校区全職員参加の研修会では、児童生徒同士をつなげる学習環境改善の必要性を再認識することができた。(⑤)

○児童生徒の学ぶ意欲を高める校内掲示・学級掲示の工夫については、4校での共通実践事項の設定にまで至っていない。今後、各校の取組を把握し、共通実践事項を見出す必要がある。(⑥)

【家庭連携の充実】

○いきいき生活ウィーク(家庭学習・ネット利用時間等の集計週間)を定期的に設定して家庭への啓発ができた。また、全学年の家庭学習への取組の様子を調査し、比較することで、家庭学習の質的・量的な充実の必要性が実態として浮かび上がるとともに、学校として系統的に育てたい力が明確になった。(⑦・⑧)

○「二中校区学習の手引き」については、実態把握や協議が進められたが、完成にまでは至っていない。家庭における自主学習の重要性を認識しており、研究2年目からの実施ができるよう進めている。(⑦・⑧)

○共通化した研究主題のもと取組を進めることができた。教職員に理念の共有は図れたものの、児童生徒や保護者にまで十分に理念の共有ができていない実態がある。児童生徒が主体となるために、児童生徒や保護者の声を大切にする研究推進であるよう、取組をさらに充実させる必要がある。(⑦・⑧)

【校種間等交流の充実】

○各学校が目指す資質・能力をそれぞれの学校の家庭、教職員、児童生徒で共有し、行事や各教科等における活動時に具体的に示したことで、小中間の連携が図られ、スムーズな小1から中3までの目指す子供像の共有が図られてきている。(⑨)

○小・中間や小・小連携等の各校の連携の充実を図るため、各校の授業を参観し合う機会を設定した。延べ20本に及ぶ各校の研究授業の相互参観は、授業力向上を目指す本校区の研究の基盤となるものであり、研究の理念の具体化や児童生徒理解の充実を図ることができた。(⑩)

○人吉市立教育研究所学力向上部会との連携により、小中学校各教科各学年の学習構想案や実践事例をMicrosoft Teamsで蓄積し、市内全職員で共有を図ったことで、人吉市全体にも本研究の視点を基にした授業構想を広めることができた。(11)

10 研究の課題と今後の展望

○4校で研究を推進することは、学校数が多く困難が伴うことである。中学校と小学校の文化の違いはもとより、各校の文化の違いを理解し合いながら、研究は組織づくりとともに進展した。困難さはあるが、4校だからこそその取り組む価値も充分に見いだすことができた。4校の共通した実践を模索する過程で、各校それぞれの特色を改めて理解することができた。連携という点では大きく前進している。

○多くの研究授業の相互参観や二中校区合同研修会を実施し、人的な交流が進み、顔の見える人間関係を構築して連携を進めることができた。今後は、組織の編成を見直すとともに、校内研修の時間を4校で調整し、オンラインで「授業力向上」「学習環境改善」「家庭地域連携」の3部会を開催するなど、より全職員が研究推進に参加できる時間を生み出すなどの工夫をする必要がある。

○研究1年目の今年度は、授業力の向上を主な研究対象に置き、学習構想案についての本校区としての基本的な考え方を共有することができた。「1つの前提と2つの視点」は、本校区の研究の最重要項目であり、公開授業の参観者からは「ゆさぶり発問」の考え方を参考にしたい、詳しく聞きたいと引き合いが強かった。そのような中で、研究推進委員会では、改めて視点1と視点2の定義や考え方の見直しが必要との意見があり、根本に立ち返って研究を進めていく必要がある。

○各校の研究主任が参加する人吉市教育研究所学力向上部会においては、視点1と視点2のそれぞれについて、より詳細に理論を深めた研究に取り組んでいる。今後はその成果を受け、二中校区研究推進組織が市教育研究所と歩みを共にして実践を進めていく必要がある。

○2年目の取組は、1年目に重点的に取り組んだ授業力向上について実践を継続するとともに、「学習環境の改善」「家庭・地域連携の充実」についてより一層進める必要がある。今後、各校の取組を把握し、共通実践事項や各校独自の取組を明確にする必要がある。グランドデザインの共有など、理念の共有を具体化した小中連携もまた推進する必要がある。

○【第二中学校】

質の高い「めあて」「学習課題」の提示や「まとめ」「振り返り」の充実を図るなど、学校総体で生徒の主体性を育成するという教員のマインドセットの転換が進んだ。授業力向上の実践が積み重ねられ、意欲をもって授業に臨む生徒が増えるなど、授業の質の向上が進んでいる。今後は各教科における数値的な向上にまでつなげることができるよう、日々の実践に取り組んでいく必要がある。また、学校外での学習時間(家庭や塾での学習時間)の質的・量的な向上について取り組んでいく必要がある。

○【人吉西小学校】

家庭学習のしっかりとした定着が課題であり、教員の見とりや家庭と連携した更なる取組が必要である。引き続き全職員が同じ視点に立って授業づくりを進めるとともに、保護者への啓発や学びのキャラクターの活用等をとおして、保護者や児童も含めて「熊本の学び」の目指す姿を共有しながら更に取組を進めていきたい。

○【西瀬小学校】

授業づくりシートを活用することで、授業の質の向上で掲げた「1つの前提と2つ

の視点」をぶれずに授業を進めていくといった質の高い授業を意識し展開していけるようになった。また、授業の質の向上をより高めるためにも、「問い」を引き出す導入の在り方や、「ゆさぶり発問・活動（深めたいム）」の設定において、捉え方や定義について議論を更に重ねていく必要がある。

○【中原小学校】

学校全体で、授業づくりや視点にしぼった授業研究会等を重ねることで、児童が問いを発することを目指す意識は広がってきている。しかし、児童が十分に問いをもたないままの教員からのめあてや学習課題の提示も見られる。今後は、児童の思考を意識した問題提示や発問の工夫を考えたり、様々な実践例を共有したりしながら更なる授業づくりに取り組んでいく必要がある。

1 1 研究成果の普及

- 研究の成果を学校ホームページ等で公開し、保護者や地域の方に本校区で取り組んでいることを周知する。
- 公開授業等を開催し、具体的な授業提案を通して地域に公開することで、更なる研究を深める機会とする。
- 研究内容に即したリーフレット等を作成し、「熊本の学び」の理念に沿った教育活動を具体的に紹介し、「熊本の学び」研究指定校としての情報発信を行う。
- 人吉市立教育研究所学力向上部会と連携・協力することで、市内全教職員で本研究推進の成果を共有する。